

【りんご黒星病対策】



『出てからでは遅い！ 早め早めの予防散布を！』

過去2年は黒星病の被害が多く、生産現場では大きな問題となっています。一昨年（H28）は5月中旬～、昨年（H29）は6月下旬～果実被害が発生しました。生育の進み・雨の降り方等感染時期は異なりますが、この黒星病は、①予防散布徹底、②散布間隔10日維持の2つを守ればほぼ防げる病害です。今回の研修会では30年度防除ポイントを開設します。

1. 病気のもととは…？

『主に前年の被害葉です。』 ⇒ 裏を返せば、この被害葉を焼却するか、粉々にすれば『もと』は断つことができます！

この被害葉から一次感染が始まります。過去2年発生が多かった園地では、病気のもとが多いため、要注意です。

2. どのように感染するの…？

『雨が降ると感染が進みます。』 (雨媒伝染) *左下写真参照

前述の被害葉が多々あり、4～5月に雨が多いと感染が多くなります。最近では、1回の集中豪雨で一気に感染が大きく進むこともあります（H28年）。

3. 防除時期は…？

- ① 発芽後（4月中旬）から薬剤散布スタート！
- ② 開花期～5月末までは、散布間隔10日維持！
- ③ 4～5月は、とにかく雨が続く前に散布完了！

4. 黒星病防除のポイントはこれだ！

- ① 4月上中旬：ユニックス顆粒水和剤 1,000 倍

⇒ 4/10～15 頃 *発芽（芽ぶき）から約7日後に当たります。

- ② 5月初旬：オンリーワンF+トレノックス (通常) 又は 黒星病多発園：スコア顆粒水和剤 3,000 倍+トレノックス

⇒ 4/28～5/5 頃 *ちょうどふじの開花期に当たります。

- ③ 5月中旬：アスパイア水和剤 (通常) 又は 黒星病多発園：スコアMZ水和剤 500 倍

⇒ 5/10 頃 *ちょうどふじの落花直後に当たります。

- ④ 5月中下旬：フルーツセイバー (通常) 又は 黒星病多発園ユニックス顆粒水和剤 2,000 倍

⇒ 5/20～25 頃 *ちょうどふじ落花20日後に当たります。

⊕ とにかく上記の4回は間隔をあけず、雨が続く前に確実に実施してください！

⊕ どれか1つでも遅れると、あっという間に感染が進み、摘果時期に果実に病斑があらわれます！

◆ 早い時期（4月下旬～5月上旬頃）に感染すると、がくあ部（尻部）に大きな病斑がつきます。大きくへこんだり、変形したりします。 *右下写真参照

◆ 遅い時期（5月末～6月）に感染すると、赤道～がくあ部（尻部）に細かい斑点病がつきます。

◆ 被害病斑は、腐敗することはありませんが、黒いカサブタとして残ります。

H30 黒星病対策防除
暦あります。希望される
方はお申し出ください。



被害葉 ⇒ これが病気のもと！



被害果 ⇒ がくあ部に大きな斑点（黒いカサブタ状）